

ぶどうの樹

2019.11

NO. 25



写真：2019年9月1日 長崎歴史文化博物館 1階ホールにて
(長崎外国語大学 客員研究員 満田 勉)

INDEX

特集1：2019年度第1回公開講座・2019年度新長崎学研究センター第1回研究集会

特集2：オープンキャンパス

特集3：大越さんの書

6 チャペル通信

7 大学情報

10 同窓会・保護者会活動報告

11 寄付事業のお礼と報告

2019年度第1回公開講座を開催しました

日時 2019年9月1日(日) 13:00～16:00
 場所 長崎歴史文化博物館ホール
 テーマ フルベッキ博士と長崎の発展



溝田 勉氏

第一部

『長崎発近代国家「明治」の養父フルベッキ』

みぞた つとむ
溝田 勉氏 (本学客員研究員)

溝田先生からは、最近出版された著書に沿いながら、これまで十分に評価されてこなかったフルベッキの長崎における活動に焦点を当てて、近代国家「明治」の形成に向けてフルベッキが果たした役割を話していただきました。

G.F.フルベッキ博士は、幕末から明治維新の時代に来日し長崎に初上陸後、サムライ俊秀達へ外国語教育を中心に国際教養を鍛え、維新政府に多数の要人を輩出させるなど活躍しました。その間、プロテスタントのキリスト教を伝道し、全国的に著名な「岩倉使節団」派遣計画、「宗教的寛容」の提言等を通じ近代国家建設の指南役を果たし、欧州諸国が400年かかるところ日本では40年間で成し遂げたと多くの外交官に言わしめています。

これまであまりフルベッキが知られてこなかった理由は、幕末・明治の日本社会大混乱の時代、外国人排斥・キリスト教禁止の時代が理由で、a)いつ、b)何処で、c)誰と会って、d)どういう話をしたかetc.の記録を一切日本に残さず、米国伝導局へ送っていたことに起因します。「岩倉使節団」についてさえ、「木戸孝允 公文書」が発見されたことで明るみになりました。

また、同博士の生涯から学ぶ事柄としては、①リーダーの「人間力」の大切さと、育て方の巧みさが立派な教材、②青年時代まで過ごしたオランダのお国柄および彼地を貿易・通商の中心地として活躍したユダヤ民族(父カールがユダヤ系金融資本家)の生き様の一例、③グローバル社会に“通用する”日本人のあり方等が挙げられます。

さらに、フルベッキ滞日中の活躍で特筆すべき事柄として以下の3点があり、近代国家建設の途上にあった我が国にとって忘れてはならない稀有の人「財」でありました。

- (1) 長崎滞日10年間に日本人青年志士を多数鍛えたこと。
- (2) 明治政府に請われて上京し、後の東京大学(現在の駒場教養学部)を設置、加えて政府の各省庁懸案事項の解決に奔走し、また上梓した“ブリーフ・スケッチ”が近代国家の骨格を創ることとなった「岩倉使節団」を生み、当時最大の国家懸案であった「不平等条約」の改正と「人間の自由」獲得に繋がったこと。
- (3) 同博士の貢献は広範囲の学校教育に止まらず、当時の日本青年の海外留学の斡旋としても実を結び約500名のうち半数以上が同博士の貢献によるものだった。

これらの功績によって、明治政府によって生前、勲三等を叙し、東京・赤坂にて亡くなった際には、明治天皇が100人に余る近衛儀仗兵を葬儀に遣わせ、芝(しば)の教会から青山墓地まで送棺させていただきます。一方では500円の御下賜金(当時の総理大臣の給与並み)を贈っています。

長崎外国語大学における教育・研究が、学生達に長崎ならではの学問的関心を喚起させ、そこから成長した学生達が多くの実を結び、国の内外で活躍し、世界と地域において平和と繁栄をもたらすことを強く望み、フルベッキの精神を本学の「建学の精神」に基づき、受け継いでゆかねばと胸に深く感じ入る所となり、協定を結んでいる長崎歴史文化博物館のホールがいっぱいとなるほど盛況でした。

第二部

『幕末長崎におけるフルベッキの授洗』

なかじまかずひと
中島一仁氏 (朝日新聞東京本社編集局校閲センター長)

『私の発見したフルベッキ』

いのうえあつお
井上篤夫氏 (作家、翻訳家)

『フルベッキの日本語教師 本間郡兵衛』

ひめのじゅんいち
姫野順一 (本学副学長)

中島講師からは「幕末の開国とプロテスタント受容について」ということで、フルベッキが洗礼を受けた佐賀藩の村田政矩(若狭)、弟の綾部幸熙(三左衛門)、浄土宗本願寺派の僧侶清水宮内(一道)が紹介されました。

井上講師は史料渉猟とアメリカ取材を踏まえ、フルベッキが長崎を愛した理由やフルベッキが我々の人生に与える指針についてお話していただきました。

姫野副学長はフルベッキの日本語教師であった本間郡兵衛について、ご子孫の家に伝世する資料に基づ

き、特に英学修行に重点を置いて報告されました。これらの成果は本学の特色ある研究として継続が必要であることが強調されました。



中島 一仁氏



井上 篤夫氏



姫野 順一



2019年度新長崎学研究センター第1回研究集会を開催しました

日時 2019年8月1日 (木) 16:00 ~ 19:00
 場所 長崎外国語大学 コミュニティラウンジ
 テーマ 日本語教育のフロンティア

第一部 基調講演 日本語教育の地域展開

かみよし うち
 神吉宇一氏 (武蔵野大学准教授)



神吉 宇一氏

今回は、日本語教育の地域展開を共通テーマとし、本学における日本語教育のこれからの地域展開を探る研究会として開催されました。本学の前教員で日本語教育学会副会長であり、『日本語教育学のデザイン』(編著)、『未来を創ることばの教育をめざして:批判的内容重視の言語教育の理論と実践』の著書があり、文化庁の地域日本語教育アドバイザーなどを務める神吉先生をお迎えして、「移民との共生を目指す地域づくりを進めるための日本語教育の役割」をテーマにお話しいただきました。

第二部 研究報告

- ① 長外大の“留学生” かわさき か な こ 川崎加奈子 (本学准教授)
- ② 日本語専修での学び なかはら さとこ 中原 郷子 (本学講師)
- ③ 日本語教員養成課程における人材育成と地域貢献 やすだ まゆみ 安田真由美 (本学准教授)
- ④ 海外の日本語教育事情 おおたに てっぺい 大谷 鉄平 (本学特任講師)



基調講演に続き、本学からは上記4名の教員が留学生の呼び方に対する配慮、日本語専修における教育実践、日本語教育と地域との関わり、韓国・台湾における日本語教育事情などについて報告(以下要旨)を行い、これからの本学における日本語教育と地域貢献についての方向を探ることができました。国内外で活躍できる日本語教師の育成は本学の大きな課題です。

①長外大の“留学生”(川崎加奈子)

グローバル化が進んでいるとされる本学ですが、「留学生」が良くも悪くも異質な存在として扱われ「本学の学生」と見なされていない場面に遭遇することがしばしばあります。留学生も日本人学生も同等の存在、という感覚ができて初めて、本学の“キャンパスが世界”が実現するのではないのでしょうか。

②日本語専修での学び(中原郷子)

日本語専修では、一人一人の日本語レベルに適したクラスの受講を可能にするために、学部7レベル、短期8レベルの日本語授業を展開しています。習熟度が最も高い超級レベルでは、日本語を使って専門知識を学び、その知識を使って口頭発表などをする授業が行われています。

③日本語教員養成課程における人材育成と地域貢献(安田真由美)

本学の日本語教員養成課程は学科、専修言語を問わず学生に広く門戸を開いており、課程修了生の25%以上が卒業時に日本語学校や大学院など日本語教育関連に進んでいます。今後は地域の日本語教育も視野に入れて、より多くの学生が活躍できる場を提供できるようにしたいと考えています。

④海外の日本語教育事情(大谷鉄平)

所属学会の国際学術大会での議論を整理し、韓国と台湾の日本語教育学界ではともにAIやマルチメディアに注目があること、学生の留学動機として台湾ではメディア・コンテンツへの関心が就業に直結する一方、韓国では語学の習得を目的とする傾向があることを報告しました。



川崎 加奈子



中原 郷子



安田 真由美



大谷 鉄平

新長崎学研究センター長 姫野 順一

夏のオープンキャンパスを実施しました

2019年度夏のオープンキャンパスを7/20（土）、8/4（日）、8/24（土）に実施しました。



2019年度夏のオープンキャンパスでは、九州各地、遠方では神奈川県や東京都など関東からも多くの参加者があり、3回の実施で高校生263名、保護者197名の計460名に足を運んでいただきました。

7/20は台風5号に、8/24は大雨に見舞われ、開催が危ぶまれるほどの天候でしたが、教職員、学生スタッフの協力もあり、無事に終了することができました。

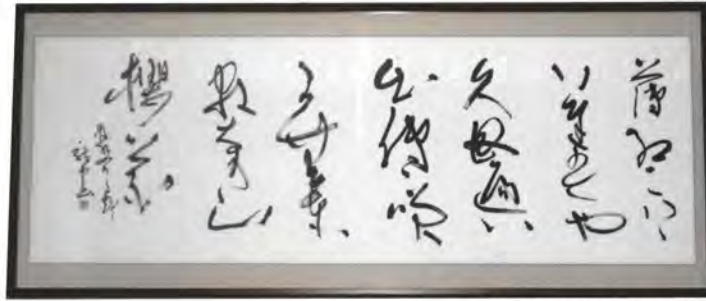
高校生たちは、言語別の体験授業では今まで学んだことのない言語に触れ、インターナショナルランチでは教員・学生スタッフとテーブルを囲み、談笑しながら料理に舌鼓を打っていました。また、フリータイムでは学生による留学体験談や入試・留学・就職相談コーナーおよび、アンペロス寮見学コーナーで熱心に情報収集している姿、面接のコツ、小論文対策コーナーでは真剣に入試対策に取り組んでいる姿、先生・先輩と話そうのコーナーでは談笑して盛り上がっている姿が見受けられ、それぞれ思い思いの時間を過ごしていました。

さらに、クロージングイベントとして行われたオープンキャンパス恒例“外大クイズ”では、外国語や外国文化、長崎外大に纏わる問題が出題され、スマートウォッチやチェキ等、上位入賞者には豪華景品が贈呈されました。

終了後に回収したアンケートでは「また参加したい」、「入学したい」等、嬉しいコメントが多く書かれており、今年度の入学試験においても多くの出願に期待しつつ、今後、一人でも多くの出願者の獲得に向け、更にオープンキャンパスの内容を充実させていく方針です。

入試広報課 神原 翔

大越さんの書



ぶどうの樹 編集委員 東撮影

玄関ロビーの壁に掛かった書をご存知でしょうか。かつて本学の事務局長を務められたことのある、大越龍雄さんによって書かれたものです。本学を定年退職された後まもなく亡くなられ、その後にご寄贈いただいたものだと思っています。

何年もの間、何と書かれているのかが気になっていました。昔習った、かな書道の記憶をもとに読もうと試みたことは何度もありますが、全体を読みこなすことはできませんでした。

先日、本学同窓会事務局の出口すゞ美さんに、読んでほしい、とお願いしてみました。ご存知の方も多いと思いますが、出口さんも書家で、留学生の授業科目での書道の講師もされている方です。そこで教えていただいた全文は、次のとおりでした。

薄紅に葉は いちはやく 萌えいでて 咲かむとすなり 山桜花
牧水のうたを 龍雲書

全文が読めると、若山牧水の春の歌だということがわかりました。歌のあとには、歌人の名と、「龍雲」という大越さんの雅号が記されていたこともはっきりしました。

口ずさむほどに、この歌は本学にふさわしい歌ではないか、と嬉しくなりました。本学の周囲の山々には、春になるとあちらこちらに山桜が咲き、大学構内からもそれらを愛でることができるからです。

若山牧水に関する書物*をひもとくと、この歌は、第十四歌集『山桜の歌』（大正12年5月、新潮社発行）に収録されている歌だとわかります。「三月末ころより四月初めにかけ天城山の北麓なる湯ヶ島温泉に遊ぶ。附近の溪より山に山桜甚だ多し、日毎に詠みいでたるを此処にまとめつ」という詞書があり、略年譜によると、前年の大正11年の項に、3月から4月、伊豆湯ヶ島温泉に滞在し、山桜の歌を多く作る、とありました。牧水には15冊の歌集があり、そのうちの最後から2冊目、没する5年前のものになるようです。「山桜は花よりも葉が先に出るという」「事実を通して生まれる感動そのものに重点があり、「流れるように、美しく、力強く、そしてさわやかに歌われているこの歌は牧水後期の代表作とみなすべきもの」だそうです。牧水は全ての花の中で山桜を最も好んでいた、とも記されています。山桜についてもライブラリー所蔵の図鑑**で調べると、「白い花と同時に赤褐色の若芽が伸びる」や「花期は4月。葉と同時に淡紅白色の花を開く」という記述がみられます。

力強い大越さんの筆と、競うように葉が萌え出でて花が咲こうとしているという歌の情景から、学生へのエールにも感じられる書だと思えます。聞いたところによると、この書は、大越さんが亡くなられた当時の事務局長が、書家であられた大越さんの作品を大学にいただきたい、と御遺族にお願いして寄贈されたものだそうです。展覧会にも出品されたことのある作品で、御寄贈いただいた頃の総務課長が、表具屋に額装の手配をして美しく整えてくださった、とのことでした。

歌を詠まれた歌人、作品として残してくださった書家、作品の寄贈を請うてくださった職員、寄贈してくださった御遺族、展示できるように心を配ってくださった職員、読み方を教えてくださった書家、と幾人もの人を介してここで鑑賞できる縁が有難く、本学で長く大事にされることを願うばかりです。

*伊藤一彦編、若山牧水歌集、岩波書店、2004。（岩波文庫）。

福田清人、小野勝美編著、若山牧水：人と作品、清水書院、1985。

**勝木俊雄監修・著、日本の桜、学習研究社、2001。（フィールドベスト図鑑、10）。

濱野周泰監修、原寸図鑑 葉っぱでおぼえる樹木、柏書房、2005。

豊かに実を結ぶ



くわはらのぶよし
桑原伸良理事 (八代バプテスト教会牧師)

「また、ほかの種は良い土地に落ち、芽生え、育って実を結び、あるものは三十倍、あるものは六十倍、あるものは百倍にもなった。」そして、「聞く耳のある者は聞きなさい」と言われた。

(マルコによる福音書 4章8-9節)

当時イスラエルでは、畑に種を蒔くには、まず畑を耕して土を柔らかくし、次に種の入った袋から種をつかんで蒔き散らす方法と、ロバの背中に穴の開いた袋をくくりつけ、畑を歩かせ種を蒔き、そのあとその上に土をかぶせていく方法だったようです。このような蒔き方はわたしたちにはどうもピンときません。日本の種蒔きではまず畑を耕し、畝を作って、その畝の中に種を丁寧に蒔いていきます。イスラエルではこのように無差別に蒔くというか、放り投げるというか、このようになかなか雑な方法で種蒔きをしていたので、人々にはこのたとえが理解されやすかったのだと思います。

マルコによる福音書4章14節に「種を蒔く人は神の言葉を蒔くのである」とあるように、種を蒔く人はイエス様のたとえなのです。

道端に落ちた種は、芽はすぐに出ますが、根がないため枯れてしまいます。これは自分の考えで凝り固まって聞く耳を持たない人のたとえだと思います。次に石だらけで土の少ないところに落ちた種は、芽はすぐに出ますが根がないので枯れてしまいます。これは好奇心だけで御言葉を簡単に受け入れ、深く考えることができない人のたとえだと思います。また茨の中に落ちた種は茨にじゃまされて伸びることができません。これは一見御言葉が根付いているようで、うわべだけの人のたとえだと思います。そして良い土地に落ちた種は、芽が出て育ち、実を結び、あるものは30倍、あるものは60倍、100倍になりました。これは神様が語られた御言葉をよく聞く耳を持って、心の底から御言葉を受け入れ、その御言葉を信じる心を持っている人だと思えます。

イエス様はどの土地が良くてどの土地が悪いということを述べられていません。ただ四つの土地、種の話をしていただけです。そこに蒔かれたどのような土地にも同じように種を蒔くのと同じように、イエス様はどんな人にも御言葉を語りかけておられます。さっきまで涙を流し御言葉に感激していた者がいつの間にかつまづいたり、茨という世のしがらみによって信仰の成長をふさがれるようなことがあります。しかしそのようなわたしたちにもイエス様は同じように御言葉という一粒の種を蒔いてくださっているのです。

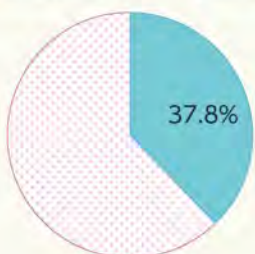
わたしたちの人生には様々なことが起こり、様々な環境の変化が起こり、わたしたちの心もいつも良い土地のようであることは難しく、石ころだらけになったり、茨におおわれたりします。そのような時にも、石ころだらけで土が少ない土地には、石を取り除き、土を入れてくださる方がいらっしゃいます。また茨が生い茂ったら、上の茨を刈り取り、日が当たるようにしてくださる方がいらっしゃるのです。そして良い土地にしてくださり、種を蒔き続け、御言葉を伝え続けるお方がおられることを信じたいと思います。

わたしたち一人一人には神様の御手が働いて良い土地に変えられ、御言葉が蒔かれています。わたしたちはいつも御言葉がしみとおる柔らかい心を持って生きていたいと思います。

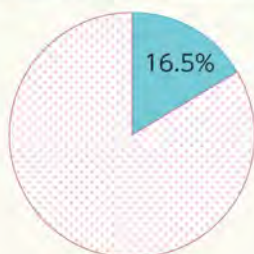
2019年7月3日チャペルアワー奨励から

「THE 世界大学ランキング日本版 2019」で
 本学は「国際性」分野で第10位にランキングされました

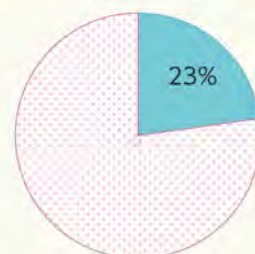
外国人学生比率



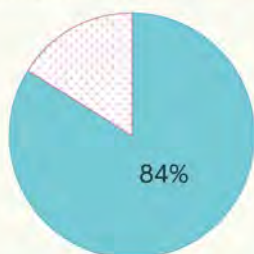
日本人学生留学比率



外国人教員比率



海外の大学との大学間交流協定数



国際性 順位	大学名	国際性 ポイント
1	国際教養大学	100.0
2	国際基督教大学	95.4
3	立命館アジア太平洋大学	94.0
4	大阪女学院大学	86.5
5	東京国際大学	85.9
6	神戸市外国語大学	85.0
7	麗澤大学	85.0
8	上智大学	83.0
9	名古屋外国語大学	82.7
10	長崎外国語大学	82.5
12	京都外国語大学	81.0
14	東京外国語大学	80.1
18	関西外国語大学	77.6
19	神田外語大学	76.6
22	九州大学	73.4
25	早稲田大学	72.4
29	一橋大学	71.8
30	京都大学	69.8
44	東京大学	63.8
47	大阪大学	62.4
59	慶應義塾大学	58.0

「THE 世界大学ランキング日本版 2019」は、「世界大学ランキング」で権威のある英国の教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーションが、国内総合パートナーであるベネッセグループの協力を得て作成しているもので、今回で3回目の発表となります。

本学がランクインした「国際性」の分野では、「どれだけ国際的な環境になっているか」が評価されており、外国人学生比率、外国人教員比率、日本人学生の留学比率などのデータがスコア化され、本学は82.5/100ポイントという高いスコアを獲得し、全国で第10位となりました。九州唯一の外国語大学として、「世界がキャンパス、キャンパスが世界」のスローガンのもと、その環境を整えてきた成果と言えるでしょう。

長崎外国語大学は、地域や世界で活躍できる多言語グローバル人材の育成を目指し、その環境整備と教育にさらに力を注いでいきます。

留学許可書授与式が行われました

2019年7月10日（水）、小西宗教主任の司式により「2019年度海外派遣留学 留学許可書授与式」が行われました。8～9月の出発を目前に、91名の学生に許可書が授与されました（アメリカ33名、カナダ2名、イギリス2名、フランス7名、ベルギー1名、ドイツ8名、韓国27名、中国6名、台湾3名、2カ国留学（アメリカとドイツ）2名）。

式典では、アメリカのサウスシアトル大学に交換留学する新垣瑠香さんが「文化にも触れて、自ら掲げた目標を達成できるように」と学生を代表し決意を述べました。また、ゴスペルサークルの皆さんが留学する学生のために“God Bless You”を歌い祝福の言葉を贈りました。



語学の達人制度について

各種語学検定試験に合格した学生を対象に「語学の達人」制度を設けて表彰しています。

合格した各種語学検定試験の段階に応じて「学長奨励賞」と「学長特別奨励賞」とがあります。募集は春学期の4月下旬から5月中旬頃、秋学期は11月中旬から下旬頃に実施しています。また、2019年度卒業者を対象とした募集も行っています。受賞者には賞状の他、副賞として「学長奨励賞」に5千円分の図書カード、「学長特別奨励賞」に2万円分の図書カードを授与しています(2014年度～2019年度)。それぞれの語学検定における基準等、制度の詳細は「学生要覧」や教育支援課からのお知らせで確認できます。また別途単位認定制度もありますので“言語教育科目「EPT Credits」[IPT Credits]について”の項目や掲示を併せてご覧ください(それぞれ個別に申請が必要です)。いずれも学生の語学目標達成の動機づけを目的としております。今後も、更なる学生の積極的な利用が期待されています。

2018年度は、学長奨励賞を25名に、学長特別奨励賞を18名に授与しました。

2019年度「語学の達人」基準表(2019年度より基準変更)

	検定名	学長奨励賞	学長特別奨励賞
英語	英 検	—	準1級
	TOEIC LR	630	750
	TOEIC SW	230	310
	TOEFL iBT	71	83
	IELTS	5	6
	ケンブリッジ英検	KET 160点以上	PET 170点以上
日本語	日本語能力試験	N1合格 (150点以上)	N1合格 (165点以上)
ドイツ語	独 検	2級	準1級
	Goethe-Zertifikat	B1	B2
	Test DaF	—	TDN 3
	ÖSD	B1	B2
フランス語	仏 検	2級	準1級
	DELF	B1	B2
中国語	中 検	2級	準1級
	HSK	筆記試験：6級合格	筆記試験：6級合格
韓国語	漢語水平考試	(180点以上240点未満)	(240点以上)
	韓国語能力試験	5級	6級
	ハングル能力試験	2級	1級

～社会人の皆様へ～

履修証明プログラム

2007(平成19)年の学校教育法の改正(法第105条等)により、社会人等の学生以外の方を対象とした一定のまとまりのある学習プログラム(履修証明プログラム)を開設し、その修了者に対して法に基づく履修証明書を交付できるようになりました。

当制度は、単位や学位が授与されるものではありませんが、修了者に対しては大学等により学修の質が保証される新たな教育プログラムです(※参考として、2019年度プログラムは以下の通りです)。

(2019年度 募集内容)

- (1) プログラム科目：「韓国語入門」、「韓国語初級」、「韓国語中級」
- (2) 出願資格：「高等学校を卒業した者」など所定の条件を満たす方(詳細はお問い合わせください)
- (3) 出願書類：履修願書(本学所定用紙)、履歴書、最終出身学校の卒業証明書
- (4) 修了要件：プログラムにおいて最低120時間以上授業に出席し全科目の試験に合格した場合に「履修証明書」を交付します。
- (5) 留 意 点：・同一年度内に1つのプログラムのみ受講でき、これ以外の科目履修はできません。
・履修証明の修了の要件は、当該年度内に満たすものとします。

長期履修制度

通常の期間(4年間)での学修が困難な事情にある方(社会人及び家事従事者など)に、修業年限を超えて計画的な履修を認める制度もあります。

いずれについても、詳細は本学HPをご覧ください、下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】長崎外国語大学(095-840-2000)履修証明プログラム:教育支援課(kyoumu@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp)
長期履修制度:入試広報課(kouhou@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp)

GAIDAI-Project

「GAIDAI-Project (プロジェクト科目)」は、実践的な学習の一環として用意されています。学生が主体となってプロジェクトの企画から運営まですべてを担い、その成功に向けて企業や地域と協力しながら自ら考え、行動する力を身につけていきます。ここでは、2019年度のプロジェクトを紹介します。

● ヒューマンライブラリープロジェクト (担当教員：小鳥居 伸介)

ヒューマンライブラリーは、様々な人を「本」として貸し出し、対話を通して理解を深め、社会の多様性について考えるというイベントです。会場を「図書館」に、語り手を「本」になぞらえ、集まった「読者(参加者)」に「本(語り手)」を貸し出し、30分の対話を行います。読者は1～3名の少人数で、直接「本」と対話し、理解を深めます。1回の開催で、読者は3～6名の「本」と対話することができます。今年度春学期は学生5名によるプロジェクトとして実施されました。LGBT、身体障がい者、がん患者、大学教員など10名の方が「本」となり、大学内外から参加した40名の「読者」との対話が終始和やかなムードの中で行われました。



● 国際交流プロジェクト (担当教員：坂本 彩希絵)

長崎外国語大学に集う人々は、日本人学生も留学生も国際交流に意欲的ですが、日々の忙しさに追われ、なかなか機会が持てないのが現状です。本プロジェクトでは第一に学内の国際交流の活性化を目標とし、イベントを企画・実施します。更に、その機会を学外にも提供していきたいと考えています。また、後輩たちのために記録を残すことも大事な活動の一部となります。2019年春学期の活動は、留学情報交換会とイベント「夏を楽しもう！」(うちわ作成・スイカ割り・花火)でした。今後も自分たちが日々学んでいること、学んでいる理由、国際交流は何のために必要なのか等々を真剣に考えるとともに、楽しくユニークなイベントの企画に意欲的な学生を募集しています。

● 新上五島グローバル化プロジェクト (担当教員：佐々木 正徳)

2018年、新上五島町と長崎外国語大学は地元企業の協力を得て連携協定を締結しました。本プロジェクトは、この協定を受けて発足したものです。地域のニーズを汲み取り、連携事業の中で課せられるタスクを、大学で身に付けた専門性を活かして解決していきます。その過程で、「働く」ことの意義、面白さ、辛さ、責任などを体感することが、本プロジェクトで期待されていることです。2019年度のタスクは「島外から見た島の魅力の発掘」です。タスクの成功のために、現地視察や就業体験、創業に関する勉強会なども実施していきます。協働力(もっとも大事)、主体性、柔軟性、先見性、行動力、発信力のある方々の参加を期待しています。

● インバウンド観光資源の探索とスマホによるスマート・ツーリズム (担当教員：姫野 順一)

姫野研究室が国立情報学研究所の北本研究室と共同で開発した、古写真に写っている場所を探る探索ツール「長崎古写真ハンティング」を理解し、応用として歴史都市長崎のスマート・ツーリズム(SNSを用いた観光)を探るプロジェクトです。プロジェクトでは次のような取り組みを行っています。

1. 観光で使うSNSについて考えてみる。
2. 携帯アプリ「長崎古写真ハンティング」の使い方を理解する。
3. 長崎の古写真を調査する。
4. 古写真がどのように観光に役立つか考えてみる。
5. 携帯アプリ「長崎古写真ハンティング」を使った観光を考えてみる。
6. 「長崎古写真ハンティング」を使うイベントを企画する。

● International Information Sharing (担当教員：藤原 和政(春学期) / 野田 雄史(秋学期))

このプロジェクトは、留学等で海外を訪れている／訪れた外大生から、また本学で学んでいる／学んでいた留学生から現地情報を集め、外大オリジナルのHPを運営することを目的としています。HPには、留学先の学校のことやその地域のオススメスポットなどについて掲載するなど、これから留学する外大生はもとより、学外の方々にも興味を持ってもらえるようなサイトを目指すことを目指して活動をしています。春学期の活動の主な成果は、①HPのコンテンツの充実、②HPの周知活動(HPのチラシの配布、外大HPにリンクを張ってもらった)、となっています。秋学期以降も、よりよいHPになるように様々な活動を行う予定です。



↑サイトはこちら

● 教会でゴスペルを歌うプロジェクト (担当教員：小西 哲郎)

科目名の通り、地域のキリスト教会でゴスペルを合唱することを通して、建学の精神であるキリスト教に触れ、学生の霊性を養い、地域の教会と大学との交流を図るプロジェクトです。具体的には、活動計画を作り、歌や楽器を練習し、その成果を教会や大学のチャペルアワー、学校行事等で披露します。活動にあたってはゴスペルの本来の意味(賛美)を大切にしたいと思っています。この取り組みが大学と地域の教会相互の活性化に貢献することを願っています。

● 同窓会だより ●

第5回関東地区支部同窓会開催報告

「即位礼正殿の儀」も終わり、朝夕めっきり涼しくなってきましたが、皆様お元気で過ごしてでしょうか。さて、10月19日第5回関東地区支部同窓会が、東京都墨田区のアサヒグループ本社ビル22Fのラ・ラナリータ（イタリアン）で開催されました。

今回の同窓会は、初代支部長平木輝生様が健康上の理由により退任され、二代目支部長加藤敏夫（短大1-4回生 1955年卒）様の就任披露となりました。

新支部長様におかれましては、公私共々お忙しい中、無理を押して引き受けていただき、安堵した次第です。

今回、関東地区支部から9名、長崎から1名、母校から栗屋理事長様、同窓会本部から出口事務局長、私、他に平木前支部長のご子息様にご出席いただき感謝申し上げます。

歓談の前に、加藤支部長様より今後の支部の在り方、栗屋理事長様からは「大学の現状について」等のお話があり、また、



ご出席卒業生の、ご活躍ぶりに嬉しくなり、大いに感動いたしました。実に有意義で盛会となりました。

今後も支部創りに努力したいと思っております。

どうか皆様のご協力を、同窓会本部や各支部に向けてくださるようお願い申し上げます。

最後に皆様方のご健勝を祈念いたしましてご挨拶いたします。

長崎外国語大学同窓会会長 岩田耕作

お 願 い

卒業生でご近所の方や所在不明者をご存知の方は、各支部から同窓会が開催される際に送付される返信ハガキにご友人の許可を得て、ご友人の氏名(旧姓)・ご住所・電話番号も併せてご記入ください。

なお、返信ハガキがお手元に無い方は、下記番号にお掛けください。FAX番号も同じです。

同窓会本部より各支部へお知らせさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

連絡先

〒851-2196

長崎市横尾3丁目15番1号

長崎外国語大学同窓会 →とにかく同窓会と書いてください。

電話&FAX：095-840-2010（直通）

卒業生の支部役員を募集中です!!
お手伝いいただける方も募集中です!!

長崎外国語大学同窓会事務局本部

● 保護者会だより ●

スポーツ大会「GAIDAIオリンピック」への支援について

2019年5月23日（木）長崎外国語大学学友会執行委員会主催のスポーツ大会が開催されました。今年は、「GAIDAIオリンピック」と称し、ムカデ競争や借り物競争、障害物リレー等の日本の伝統的な種目に20チームが参加し、当日の日差しに負けない程の熱気に包まれた本学グラウンドで、優勝を目指して全力で競い合いました。

さまざまな国からの留学生たちが日本語で作戦を立てていたり、外国語の声援も飛び交う、東京オリンピックより一足早く行われた長崎外国語大学らしいオリンピックでした。

留学生たちと日本人学生とがスポーツを通じて交流ができるこの大会は、本学の国際性豊かな環境ならではのものであり、また、新入生たちにとっては絶好の交流の場となっています。



GAIDAIオリンピック 2019年5月23日

長崎外国語大学保護者会としては、毎年度本スポーツ大会運営に係る支援等を行っており、今年度も運営費の補助支援を行いました。また、本学の国際性に溢れるキャンパスの発展および向上に寄与するべく、学生たちがよりよい大学生活を送れるよう今後も引き続きさまざまな支援等を行っていき、学生たちをサポートしていく方針です。

長崎外国語大学保護者会理事会



教育研究の整備に関わる寄付事業のお礼と報告

平成27年4月から開始いたしました「教育研究の整備に関わる寄付事業」は令和元年9月末現在で609件、25,683,010円（平成31年4月1日～令和元年9月30日：72件、2,780,010円）のご寄付を賜り、ご支援をいただきました同窓会、保護者会、取引先、在学生保護者を始めとした多くの皆さまに深く感謝申し上げます。

皆様の温かいご支援にお応えすべく、教育環境の整備のために鋭意努力をして参る所存でございますので、今後とも本事業の趣旨にご理解とご協力をお願い申し上げます。

寄付者ご芳名一覧 平成31年4月～令和元年9月ご寄付分 たくさんの温かいご支援ありがとうございました

個人部

(敬称略)

石井 眞紀子	上園 貴士	黒田 喜三男	佐藤 栄磨	出口 すづ美	羽仁 千秋	松澤 善裕	森脇 浩
一宮 啓祥	大路 礼子	御塚 隆満	關 功一	鳥賀 政明	浜崎 俊一	道崎 満寿男	吉田 勝広
井上 優子	岡田 幸恵	小道 隆	高木 泰文	中尾 元紀	東 正信	森 義則	ワキタ シンジ
岩田 耕作	川原 仁幸	坂本 登志子	田中 多鶴子	西村 禎泰	平下 美登里	森谷 和一郎	

法人部

株式会社アイコック	有限会社九豊工業株式会社	西九州エレベーターサービス	株式会社松田久花園
アダチ産業株式会社	株式会社松栄設備	ニュー長崎ビルディング株式会社	株式会社森美工務店
株式会社一広	株式会社セキュリティハウスケント	株式会社補助	株式会社大和屋
扇精光ソリューションズ株式会社	株式会社長崎消毒社	株式会社プロゼ	株式会社雄苑
有限会社大谷書店	長崎外国語大学ビジネス株式会社	株式会社平安閣	有限会社ロフト
九州印刷株式会社	長崎文化放送株式会社	株式会社ホクト	

新長崎学研究に関わる寄付事業のお礼と報告

平成28年4月から開始いたしました「新長崎学研究に関わる寄付事業」は令和元年9月末現在で104件、11,182,500円（平成31年4月1日～令和元年9月30日：56件、713,500円）のご寄付を賜り、ご支援をいただきました多くの皆さまに深く感謝申し上げます。

現在、長崎で育まれてきた国際理解や平和などに関する見識を学問的に位置付け、国際協力活動への参画に役立つグローバル人材の育成実現を目的として設立した「新長崎学研究センター（平成28年4月1日）」が掲げる三本柱、即ち①外国語教育方法の研究、②近代国家「明治」の養父フルベッキ博士研究、③長崎ブランドとしての新観光政策・戦略研究をいずれも未来からの視点から研究推進しています。

なお、令和元年度の活動としては、秋学期に新長崎学研究センターで「長崎における英学・英語教育史」の出版を予定しています。皆様から賜りましたご寄付はその出版費用の一部に活用させていただきたく存じます。

今後ともグローバル人材の育成という本事業の趣旨にご理解とご協力をお願い申し上げます。

寄付者ご芳名一覧 平成31年4月～令和元年9月ご寄付分 たくさんの温かいご支援ありがとうございました

個人部

(敬称略)

栗屋 曠	上園 貴士	川原 仁幸	竹下 和子	田端 安範	浜崎 俊一	森脇 浩
一宮 啓祥	江口 克彦	栗林 祐子	竹下 博史	辻本 元子	前田 裕一郎	山崎 温子
井上 優子	岡田 幸恵	坂本 登志子	田中 希美	鳥賀 政明	宮本 光	吉田 雄之進
岩田 耕作	小川 守	佐藤 栄磨	田中 直英	羽仁 千秋	森 隆子	

法人部

株式会社アイコック	株式会社セキュリティハウスケント	株式会社補助	株式会社雄苑
株式会社稲崎産業	一般財団法人長崎YMCA	株式会社平安閣	
有限会社大谷書店	日新火災海上保険株式会社	株式会社ホクト	
有限会社小田警備保障	日本紙工印刷株式会社	星野管工設備株式会社	

寄付に係る税金（所得税・住民税）の優遇制度について

寄付をされると次の要領で税金が戻ってきます。詳しくは、法人事務局財務課までお問い合わせください。

個人 寄付金が2千円を超える場合は、超えた金額に40%を乗じた金額が税額控除されます。【(注)：寄付金額は年間総所得金額の40%、税額控除は所得税額の25%がそれぞれ限度額となります。】

地方自治体が条例指定している場合は、住民税についても寄付金控除が適用されます。

※各自治体の条例指定の有無につきましては、各自治体によって異なりますので、ホームページ等でご確認いただくか、直接自治体へお問い合わせください。

法人 受配者指定寄付金によって、日本私立学校振興・共済事業団を通じて寄付していただきますと、法人税法上、その寄付金を全額損金へ算入できます。【事前の手続きが必要です。ご説明をいたしますので、寄付の際は大学にお申し出ください。】

ご寄付のお申し込みについて

お電話またはメールで、ご住所、お名前をお知らせください。
法人事務局よりご説明および必要書類をお送りいたします。

お問い合わせ先

学校法人長崎学院 長崎外国語大学 法人事務局 財務課 (担当：前田)
Tel : 095-840-2003 (法人財務課直通) Email : keiri@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp



本学2階コモンスペースにて

2019年8月4日のオープンキャンパスに協力してくれた学生ボランティアのみなさん。
オープンキャンパスに参加した高校生や保護者に対して、留学体験や学校生活など
大学生目線の話をしたりと、当日の運営に大きく貢献しました。